

全店舗を守る、監査の新常識

現金不正は「仕組み」で防ぐ

まかせて不正検知



01 はじめに

飲食チェーン業界で加速する「不正リスク」への対応。現場任せ・属人化された監査体制の限界と、デジタルによる信頼の再構築。

02 なぜ不正は起きるのか？

「動機・機会・正当化」の三要素モデル。レジ金、返金処理、割引操作など店舗現場の構造的課題と本部チェック体制の限界。

03 まかせて不正検知とは？

「まかせてネット」に搭載された現金不正検知機能。日次全会計自動分析、異常値アラート通知、高精度検知ロジック。

04 導入事例

株式会社オーイズミフーズ様における約300店舗の監査課題と、不正検知システムによる全店日次監査・不正抑止の実現。

05 各部門が得られるメリット

経営層、監査部門、店舗責任者など、各部門・役割別に得られる具体的なメリットを解説。

06 導入ステップと成功のポイント

現状課題の棚卸から効果検証、運用定着までの一連のステップと、不正検知DXを成功に導くポイント。

07 まとめ

人を疑うのではなく、守るための「不正検知」。信頼と透明性を仕組みで支える新時代への展望。

01 はじめに

飲食チェーン業界での「現金不正リスク」

現金を取り扱う飲食チェーン業界では、レジ操作ミスから意図的な現金着服まで、「不正リスク」が常に存在しています。特に人手不足や業務の複雑化により、本部による監視の目が行き届きにくくなっている現状があります。売上の現金比率が高い飲食業界では、こうした不正が売上減少や信頼低下に直結するため、対策の重要性が増しています。

現場任せ・属人化された監査体制の限界

多くの飲食チェーンでは、店舗監査は「定期的な巡回」や「抜き打ちチェック」が中心となっています。しかし、監査担当者の経験や勘に頼った属人的な手法では、全店舗を均質にカバーすることが難しく、チェック漏れが発生しやすい状況です。また「2名で300店舗を巡回」といった人的リソースの限界も、監査体制の脆弱性につながっています。

デジタルで信頼を築く「まかせて不正検知」の役割

不正リスクに対しては、「人を疑う」のではなく「仕組みで守る」アプローチが求められています。「まかせて不正検知」は、デジタル技術を活用して日次で全会計データを分析し、異常値を自動検出することで、不正の早期発見と抑止を実現します。

デジタル化による不正検知のメリット

-  全店舗・全取引の均質な監査が可能
-  人的リソースに依存せず、持続的な監査体制を構築

-  透明性の高い店舗運営による信頼醸成
-  不正の抑止効果と早期発見による損失の最小化

02 なぜ不正は起きるのか？

⚠️ 不正が起こるメカリズム：不正の三要素

動機・プレッシャー

経済的困窮、個人的な債務、生活水準の維持など、金銭的な動機や心理的プレッシャー

機会

監視の目が届かない環境、チェック体制の不備、権限の集中など、不正を可能にする状況

正当化

「一時的に借りるだけ」「皆やっている」「給料が安いから当然」などの自己正当化

🏠 店舗では「不正が起こりやすい環境」が構造的にある

- ⚠️ レジ金の過不足／つり銭の抜き取り
- ⚠️ 割引や返金操作の悪用
- ⚠️ 売上の改ざん（データ未登録等）
- ⚠️ 持ち出し現金の未報告

チェックの目が届かないことで、“仮面をかぶった”ような不正が潜んでいます。



🔪 本部チェック体制の限界

多くの飲食チェーンでは、限られた人員で多数の店舗を監査する体制に限界があります。

例えば「2名の監査担当で300店舗を巡回」という状況では、1店舗あたりの訪問頻度は半年に1回程度となり、日常的な不正の検知は困難です。

また、事前通知の監査では準備が可能なため、不正の検出効果は限定的です。

監査体制の課題：

人的リソース不足 → 監査頻度の低下 → 不正の見逃し → 被害の拡大

※この悪循環を断ち切るためには、人海戦術ではなくデジタル技術による「仕組み」が必要です

03 まかせて不正検知は？

「まかせてネット」の不正検知サービス

「まかせて不正検知」は、店舗管理クラウド「まかせてネット」に搭載された、飲食チェーン向けの不正検知サービスです。POSデータと連携し、レジ操作・現金管理の不自然なパターンを自動検出します。これにより、従来は目視や抜き打ち検査でしか見つけれなかった不正や異常を、データ分析によって組織的・網羅的に発見できるようになります。

日次で全店舗の全会計を伝票単位でチェックし、不正を自動検知

店舗での不正を早期発見するため、異常パターンや不正の兆候を自動検出。ジャーナルチェック機能で疑わしい記録を抽出し、デジタル管理で不正の追跡が可能にします。

高精度検知ロジックとカスタマイズ機能

業態の違いを考慮し、不正検知ロジックはカスタマイズ・チューニングが可能です。導入時の実データ分析に基づいて最適な検知条件を設定します。

不正を
自動検知

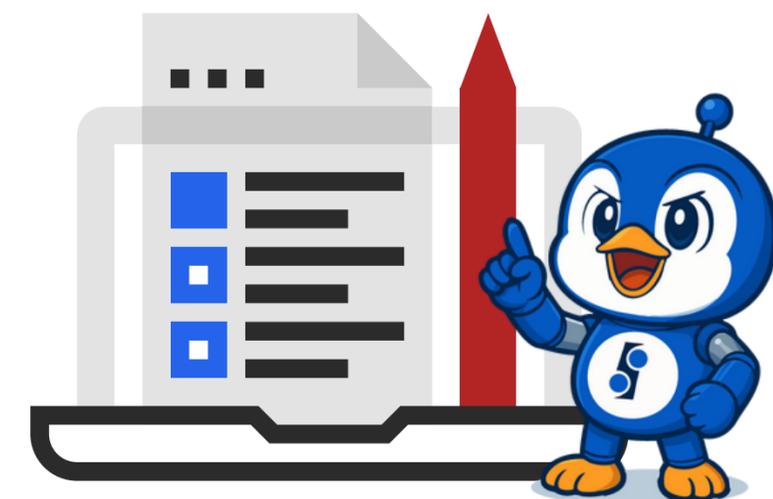
ルール設定で不正の兆候を抽出

日次検知で
早期発見

毎日の全取引を漏れなくチェック

不正傾向
スコア化

データから傾向をスコアで整理



無料診断も実施中

04 導入事例ストーリー：株式会社オーイズミフーズ様

① 約300店舗の監査体制における課題

株式会社オーイズミフーズ様は、全国に約300店舗を展開する飲食チェーンです。店舗数の増加に伴い、少数の監査担当者では全店舗を効果的にカバーすることが困難になっていました。特に、現金取り扱いの多い店舗では、レジ操作ミスや不正リスクが潜在的な課題となっており、効率的な監査体制の構築が急務でした。

🦠 コロナ禍で浮き彫りになった監査の脆弱性

2020年のコロナ禍では、移動制限や感染リスクにより、従来の巡回型監査が事実上不可能となりました。その結果、一部店舗では監査が行き届かず、不正リスクの高まりが懸念される状況に陥りました。この経験から「非接触でも全店舗を均質に監査できる仕組み」の必要性が経営課題として認識されるようになりました。

🤝 ジャストプランニングとの共同構築と成果

株式会社オーイズミフーズ様は、私たちジャストプランニングと協力し、自社の監査ノウハウを活かした不正検知システムを構築しました。「まかせてネット」をベースに、同社特有の不正パターンを検知できるカスタマイズを実施しています。



導入後の具体的成果

✓ 全店舗を対象に日次で不正を自動検知

POS連携データをもとに、300店舗すべての取引を日次で分析。不正兆候や異常値を即時に抽出可能に。

👉 不正抑止力の強化と仕組みの定着

検知・対応のサイクルが確立し、店舗現場では「不正ができない環境」が自然に構築されつつある

👤 監査体制の省人化と効率化を実現

監査担当者は、スコアが高い店舗へ優先的に注力。少人数でも全国店舗を均質にカバー可能に。



05 各部門が得られるメリット：経営層

経営層が得られる具体的メリット



ガバナンス強化

全店舗の取引を均質かつ網羅的に監視することで、内部統制を強化。
監査精度の向上と不正抑止によるコンプライアンス体制の確立。株主や金融機関からの信頼性向上にも寄与します。



利益確保・損失防止

現金着服や不適切な割引操作による
「小さな漏れ」が積み重なる前に早期発見・対策。数%の売上改善が年間数千万円規模の利益向上につながります。
不正による損失リスクを大幅に低減できます。



ESG対応と持続可能性

透明性の高い企業統治（G）は、ESG投資の重要要素。
デジタル活用による監査の効率化は環境負荷（E）低減にも貢献します。社会的責任（S）を果たす企業として、ステークホルダーからの評価向上にもつながります。



組織の信頼性向上

「人に依存しない仕組み」の構築により、本部-店舗間の信頼関係を強化。
疑心暗鬼ではなく、透明性に基づいた健全な組織文化の醸成に貢献します。
人材の定着率向上にも効果があります。

経営戦略としての不正検知システム導入：

「まかせて不正検知」は単なる監視ツールではなく、収益改善・ガバナンス強化・組織文化醸成を一体化した経営改革ツールとして機能します。
デジタル化による効率的な監査体制は、人手不足時代の経営戦略としても有効です。



06 各部門が得られるメリット：監査部門・店舗責任者

監査部門のメリット

効率化

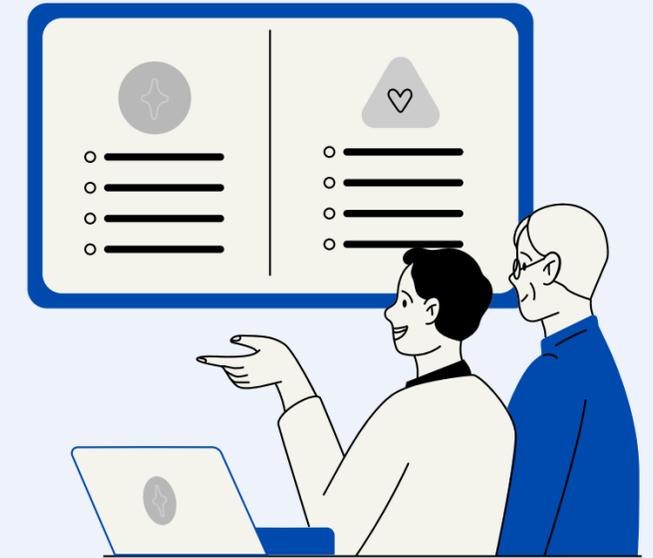
- 全店舗の監査を日次で自動化し、少人数で網羅的な監査が可能に。
- 定型作業を省き、分析業務に専念できます。

見える化

- 経験に頼らず、データに基づいた監査基準を構築。
- スコアリングや傾向分析で、不正の兆候も早期発見。

巡回監査の高度化

- アラート内容から優先度の高い店舗へ効率的に巡回。
- 回数や頻度の根拠が明確になり、計画立案もスムーズに。



店舗責任者のメリット

冤罪リスクの回避

- 客観的データに基づく確認で、不正とミスの線引きが明確に。
- 正確性と納得感のある対応が可能になります。

心理的安全性

- 監査が「疑うため」ではなく「守るため」と伝わり、安心感が向上。
- ルールを守る文化が定着し、評価も高まります。

業務効率と関係性の改善

- 監査対応の負荷が減り、本業に集中できる。
- 本部との関係も「見張る」から「支援する」へ。

07 導入ステップと成功のポイント

5段階の導入ステップ

1 棚卸

現状のチェック体制や不正傾向の把握

➡ 組織内の問題意識の共通化

2 検証

全店の取引データで実際の異常値・不正兆候を確認

➡ アラートの質と量を把握

3 最適化

アラート内容の調整と検知精度の向上

➡ 本部側の運用フローも設計

4 定着

本部運用体制の構築と日常業務への組み込み

➡ 日々の「仕組み」として確立

成功のポイント：PDCAサイクルの構築

不正の手口が変わっても、検知ロジックや運用を柔軟にチューニングできるよう、PDCAを回し続けることが重要です。

効果的なPDCA実践のポイント

- 定量的な効果測定指標の設定（検知率、誤検知率など）
- 現場と本部の連携体制の構築
- 検知後の対応フローの標準化
- 定期的な振り返りミーティングの実施



08 まとめ | 信頼のDXが、飲食チェーンを強くする

✓ 疑うのではなく、守るための「不正検知」

不正検知の目的は、“監視”ではなく「不正が起きにくい環境づくり」です。透明性ある仕組みにより、従業員・店舗・本部の間に信頼関係を構築できます。

🔍 信頼と透明性を仕組みで支える

「まかせて不正検知」は、これまで人手に頼っていた監査業務を自動化・効率化します。

🚀 新時代の飲食チェーン経営へ

人手不足・コスト増・顧客ニーズの多様化。変化に対応するには、経営リソースの最適配分と環境整備が鍵です。

不正の見守りは、
ボクにおまかせください！



「まかせて不正検知」が実現する、信頼と成長の経営基盤

- 経営は本来の成長戦略に集中、現場は安心して業務に専念
- データに基づく透明性の高い店舗運営で、社内外からの信頼獲得
- 不正リスクの可視化と迅速な対応による損失の最小化

飲食チェーンの健全な成長を支える、まかせて不正検知

詳細な機能や導入事例については、ぜひお問い合わせください。
貴社の課題に合わせた最適なソリューションをご提案します。



導入相談してみる